

第3回 住環境・コミュニティ部会 主な意見

●検討のたたき台について

- ・このような内容を早急に進めるべき。これまでずっと言ってきたが進んでこなかった。
- ・いつ頃やるのかははっきり決まらないと、善し悪しの判断がつかない。

●若い世帯を引き付ける「目玉」が必要

- ・若い30~40代が入居し子どもを生み、人口を増やさないとコミュニティ維持がままならない。
- ・広い間取りの住宅など改修による住戸バリエーションを増やすべき。
- ・「新婚割」「子育て割」など家賃を下げてあげられるとよい。
- ・子どもを安心して預けられるような保育所。 年度途中からでも入園しやすく。
- ・駐車が有りボール遊び・フリークライミングなどスポーツできる場所（例：堺市・原池公園）

●建物や活動スペースより先に、小さな取り組みを積み重ねて考えていくべき

- ・悩みを持つ子育て世帯や子ども（母子家庭、障がいを持つ子ども、児童養護施設等）を、市・地域等が協働で支えて元気にできる「温かい人のいるまち」「住みたくなるまち」を目指したい。
⇒参加しやすいイベントからはじめたい（お祭りや子ども向けイベントなど）。支援が必要な世帯は、あまり晴れがましいイベントだと気後れすることが多い。
- ・小さなイベントを重ね、参加者の意見を聞きながら活動をつくっていき、活動スペースなどのハードも、同じように徐々に望ましい形を探っていく方がよい。
- ・人権文化センターで実施の識字学級は人がつながるきっかけ・困り事の相談等としても機能。
- ・多様な人を受け入れるためには、受け入れ側も学習する必要がある。
- ・組織、立場など関係なく、オープンにみんなが参加して進めていくようにするべき。
- ・それぞれのコミュニティに応じた催し物・イベントが必要。

●新住民とどのように交流していくか

- ・新住民は、団地の清掃や、集会所の利用など、コミュニティ参加のきっかけが必要。
- ・東京都立川市の大山団地（自治会加入率100%）には、24時間対応の相談ステーションがある。「ママさんサポートセンター」のボランティアが子育ての相談に乗ったり、班長が会費回収を訪問で行い安否確認を兼ねたり、その中で月1回の清掃活動を行ったりしている。
- ・関わるきっかけとしてハードルの低いイベント（餅つきや誕生日会など）をまちとして計画しては、その際、イベントを行いやすいような体制（助成金等）を整える必要があると思う。
- ・関心を持つ情報はそれぞれ違う。台風被害など、誰しもが関心を持つ情報の共有の仕組みをつくることからはじめては。

●地域の交流や子育て環境づくりに向けて今からできること

- ・自分も子どもの頃、青少年センターで遊んで、まちへの愛着をもったように、今の子ども達もまちに愛着を持てる事がしたい。
- ・プレイパークは地域で運営することができる事業であり、まちづくりのきっかけになる。プレイリーダーとして地域の大人に参加してもらえ、費用もあまりかけなくてもできる。

●地域の人が集まる場所のアイデア

- 団地内の空き住戸を集まる場になると、騒音の問題、駐車スペースの問題がある。
- 独立した専用の建物が望ましい。足腰の不自由な高齢者も多いので、EVや椅子座がよい。
- 高齢者が気軽に集まり、コーヒーを飲んだりできる（有料でもよいが、安くしてほしい）。
- 同時に子どもたちも集まって遊べる場にし、多世代の交流ができればよい。

●建替えについて

- 建替え後の住宅には EVが必須。高層にして余剰地を生み “集まれる場”や“多様な所得階層が住める住宅”、“子育ての拠点”を作してほしい。
- 引っ越し先が1階、EVありの住棟、現在近所に住んでいる人と近くの住戸等の条件であれば、建替え促進のために引っ越してもよい。ただし、引っ越しの費用・人手が必要。

●その他

- 街の中に点在する商店をまとめて、買い物に行きやすくしてほしい。
- 利便施設は、駅前などみんなが利便性の高い場所に集約してほしい。
- めぐーるバスの停留所をもっと住宅街の中に増やしてほしい。